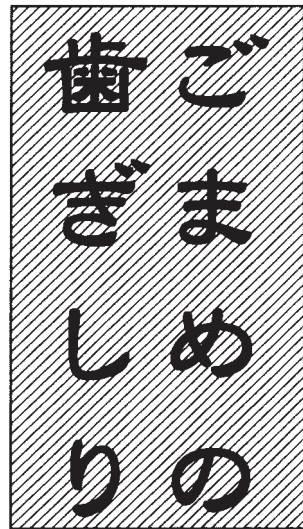


(商標登録番号・第4234817号)



— 第56号 —

河野太郎事務所

ツイッター @konotarogomame

電子メール tarokono1963@gmail.com

ホームページ <http://www.taro.org/>

自民党神奈川県第15選挙区支部

平塚事務所

〒254-0811 平塚市八重咲町26-8

TEL 0463-20-2001 FAX 0463-20-2002

茅ヶ崎事務所

〒253-0045 茅ヶ崎市十間坂1-2-3-2F

TEL 0467-86-2001 FAX 0467-86-2002

議員会館

〒100-8982 千代田区永田町2-1-2

衆議院第二議員会館1103号室

TEL 03-3508-7006

が四つ星(大将)となります。

二〇一九年九月一日、第四次安倍第二次改造内閣で防衛大臣に就任しました。

「第四次安倍第二次改造内閣」というのは、四回目の首班指名をされた安倍総理が行った二回目の内閣改造ということです。

防衛大臣は、防衛省の長として自衛隊法の定めるところにより自衛隊を統括する立場です。基地や駐屯地などを訪問するときには、五つ星(実際には桜の花)の防衛大臣旗が掲げられます。ちなみに、総理大臣が訪問する場合も、五つ星の内閣総理大臣旗が掲げられます。

自衛隊では、陸将補・海将補・空将補が二つ星、つまり他国の軍隊の少将にあたり、陸将・海将・空将が三つ星(中将)、統合幕僚長と陸海空それぞれの自衛隊の幕僚長の四人

日本周辺の情勢

日本周辺では、中国、北朝鮮、ロシアといった国等が大きな軍事力を持ち、なおかつそれを拡大しようという傾向が顕著です。

防衛大臣就任

特に中国は、急速に軍備を拡大し、「世界一流の軍隊」を建設することを目標に、軍備を拡大、近代化させています。

公表されている中国の軍事費は、一九八九年から急速に拡大し、この三〇年間に四八倍、二〇〇九年から

年度の日本の防衛関係費は約五兆円ですが、中国の公表国防費は約二〇兆円を超え、日本の約四倍です。しかも中国の公表国防費には外国からの装備品の購入額や研究開発費は含まれていないとみられ、実際の軍事費はさらに大きくなるとみられます。中国は、一九九一年までは、近代

的な潜水艦や駆逐艦、あるいは第四世代第五世代戦闘機をなにも一つ保有していませんでした。しかし、今日では自衛隊でも一九隻しか保有していない近代的な潜水艦を四六隻、近代的な駆逐艦を自衛隊の四八隻に対して六一隻、第四・第五世代戦闘機に至つ

ては自衛隊の三倍近い九八八機も保有しています。中国は、確立された国際法や国際秩序とは相容れない独自の主張に基づいて、力を背景とした一方的な現状変更を試みるとともに、東シナ海など日本周辺の海空域で軍事活動を活発化させています。二〇一五年以降、機関砲とみられる武器を搭載した中国公船による尖閣諸島周辺での我が国の領海侵入が繰り返されるようになりました。二〇一九年一月から八月の間に二四回、九四隻の領海侵入が行われました。

中国は、尖閣諸島への領海侵入を繰り返してきた公船が所属する海警部隊を、中央軍事委員会の指揮を受ける武装警察に編入する、例えば海上保安庁を軍に編入するような動きをみせています。また、日本周辺で領空侵犯のおそれのある航空機が発見されると自衛

河野太郎の国会報告

隊が戦闘機を緊急発進させ、相手の行動を監視するなど、一連の行動を実施します。二〇一八年度には中国機に対するこうした緊急発進回数は六三八回にものぼりました。この年、ロシア機に対する緊急発進回数も三四三回となり、合計回数は九九九回を数えました。冷戦期のピークでも緊急発進は年間九四四回でしたので、最近の緊急発進は冷戦期を超えています。

さらに中国は、太平洋や日本海においても軍事活動を活性化させて、海軍や空軍の太平洋への進出も高い頻度で行っています。南シナ海では、中国の領有権に関する主張は法的に根拠がないとされた国際的な司法判断を無視し、大規模な埋め立てを強行し、戦闘機や爆撃機が発着できる飛行場やミサイル、電波妨害装置などが確認されています。

アメリカとロシアがINF（中距離核戦力）全廃条約を結び、中距離ミサイルの開発を凍結している間も、この条約に加入していない中国は、中距離ミサイルの開発・配備を続けてきました。

北朝鮮は、大量破壊兵器や弾道ミサイルの開発を進めているほか、大

規模なサイバー部隊を保持し、軍事機密の窃取や他国の重要インフラへの攻撃能力を開発していると思われる。また、破壊工作やゲリラ戦に従事する大規模な特殊部隊も保持していると考えられています。加えて、日本に対して挑発的な言動を繰り返していることもあり、我が国にとって重大かつ差し迫った脅威となっております。

さらに、外貨獲得のために弾道ミサイルを輸出していることを北朝鮮は認めたことがあり、核拡散と並び、国際社会全体への深刻な課題となっております。

ロシアは、ソ連崩壊後、一時的に軍事を縮小しましたが、近年、軍事活動を活性化させ、ウクライナやシリアなどで力を背景とした一方的な現状変更を行い、シリアのアサド政権を擁護する立場でシリア内戦に介入するなど国際的な影響力の拡大を意図した動きを見せています。

ロシアは通常戦力の劣勢を補い、アメリカとの核戦力の均衡を図る観点から、核戦力の近代化を優先的に推進しています。

我が国と関係の深い極東地域のロシア軍は、冷戦期と比べると大幅に

削減されていますが、依然として核戦力を含む相当な規模の戦力が存在し、活動が活性化する傾向にあります。

このように、我が国を巡る安全保障環境は、非常に厳しいものがあります。そのため、在日米軍をはじめとするインド太平洋地域におけるアメリカ軍の存在は引き続き非常に重要です。そして、日本、オーストラリア、韓国などがアメリカとの同盟関係、友好関係を築くなかで、米軍が駐留したり、ローテーション展開したりしています。

独自の主張に基づく力を背景とする一方的な現状に対しては、国際法に基づく既存の国際秩序を守るために、国際的に各国が連携していくことが必要です。

自衛隊のしくみ

自衛隊には皆さんご存じの通り、陸上・海上・航空の三つがあり、それぞれのトップが四つ星の幕僚長です。

陸海空の各幕僚長は、人事・教育訓練・防衛力の整備を担当し、フォースプロバイダー（部隊の供給者）と

呼ばれます。

有事の際に、防衛大臣の指揮の下、実際にその部隊を運用するのは、やはり四つ星の統合幕僚長（統幕長）で、フォースユーザー（部隊の活用者）と呼ばれます。

つまり、陸海空のそれぞれの幕僚長は、戦闘機や戦車、護衛艦などの装備を調べ、それを活用する日々の訓練をしっかりと行います。有事に大臣の命令を執行するためには、各自衛隊で令を出して動かすのは、各自衛隊ではなく、統幕長率いる統合幕僚部が一元的に行います。

南西への守り

南西地域の防衛態勢を強化するために空自は二〇一六年に那覇基地に第九航空団を新たに編成し、二〇一八年にはトカラ列島以南を担当する南西航空方面隊を、那覇基地を司令部として組織しました。陸自は、二〇一六年に与那国沿岸監視隊を新編し、二〇一八年に本格的な水陸両用作戦機能を備えた水陸機動団を組織しました。さらに二〇一九年には奄美大島と宮古島に警備部隊等を配置し、今後、石垣島にも警備部隊等を

配置します。

また、部隊の大規模かつ迅速な輸送・展開能力を確保するために、「おおすみ」型輸送艦を改修し、V-22オスプレイ、C-2輸送機などを導入します。

ミサイル防衛

北朝鮮は、二〇一六年以降、三回の核実験と五〇発を超えるミサイルの発射を繰り返し、日本に対する深刻な脅威になっています。

これまでの我が国の弾道ミサイル防衛は、海上自衛隊のSM-3搭載のイージス艦による上層での迎撃と、航空自衛隊のPAC-3ミサイルによる下層での迎撃を組み合わせ、多層防衛により我が国全域を防衛することとしています。我が国全域の防衛のためにはイージス艦を二隻程度、日本海に展開することが必要です。イージス艦には、整備・訓練・展開というサイクルが必要なので、二隻を弾道ミサイル防衛任務のため常時展開しておくためには八隻のイージス艦が必要になります。

洋上で、いつ発射されるかわからないミサイルへの対処のため、常に

高い集中力を維持することは隊員の心身にも大きな負担となります。また八隻のイージス艦もミサイル防衛に専従することになると、他の任務につけることができません。

イージス・アショアを導入することにより、日本全域を二四時間、三六五日切れ目なく防護し、隊員の負担も軽減することができます。

「いずも」型護衛艦の改修

日本周辺の各国が航空戦力を近代化し、南西諸島の列島線を超えて太平洋側に進出することが増加しています。今後、この動きはさらに活発化すると予測されています。

こうした状況の中で、我が国の防衛を万全にするためには、高い性能を有する戦闘機による航空優勢の確保が重要です。しかし、太平洋側に大きく広がる日本の排他的経済水域の中には、戦闘機が離着陸できる飛行場が硫黄島にしかありません。

そのため、短距離離陸・垂直着陸が可能な戦闘機（STOVL機）であるF-35Bを導入するとともに、必要な場合にはSTOVL機の運用が可能となるよう「いずも」型護衛艦

艦の改修を行うことで、隊員の安全を確保しながら、自衛隊の展開基盤が乏しい太平洋上での防空任務を円滑に行えるようにします。

防衛予算

二〇一九年度の防衛関係費は五兆七〇億円です。

この内訳は、陸上自衛隊一兆八四五〇億円（三七％）、海上自衛隊一兆二四七億円（二五％）、航空自衛隊一兆一〇二億円（二二％）、その他八三六一億円（一六％）となっています。

我が国の二〇一九年度防衛予算を二〇〇九年度防衛予算と比べると、一・〇六倍になっていますが、これを他国と比較すると

- ロシア 二・六二倍
- 中国 二・五二倍
- 韓国 一・六一倍
- 豪州 一・四五倍
- 日本 一・〇六倍
- 米国 一・〇二倍

となります。我が国周辺で、軍拡が起きていることがわかります。

各国の防衛予算をOECDが公表している購買力平価でドル換算して、

対GDP比で比較すると（二〇一八年度）

- 米国 二・九三％
- ロシア 二・七七％
- 韓国 二・四二％
- 豪州 一・九一％
- 仏国 一・八二％
- 英国 一・七〇％
- 中国 一・二五％
- 独国 一・一四％
- 日本 〇・九〇％

となります。日本が、諸外国と比べて少ない負担で国防を成し遂げようとしていることをおわかりいただけたと思います。

さらに令和元年度は、各種効率化により、防衛予算の縮減を図っています。具体的には、F-35Aの取得方法の見直しなど費用対効果の低いプロジェクトの見直しで二、〇二〇億円の縮減、主要装備品の材料費や工数の妥当性の検証等による価格低減の取り組みで、一二九億円の縮減、民生品の使用や仕様の見直しにより三三八億円の縮減、ハードウェア及びソフトウェアの集約など維持・整備方法の見直しによる一五三億円の縮減など合計四、一五九億円の予算の圧縮を具体化します。

数字で見える河野外交

二〇一七年八月三日、第三次安倍第三次改造内閣で第一四五代外務大臣に就任し、二〇一七年一月一日、第四次安倍内閣において再任（第一四六代外務大臣に就任）。二〇一八年一〇月二日、第四次安倍改造内閣で留任（第一四六代外務大臣のまま）、そして、二〇一九年九月一日、第四次安倍第二次改造内閣で防衛大臣に就任するまで、外務大臣としての在任期間は七七〇日でした*。

戦後歴代外務大臣在任期間を長い方から並べてみると

- 一九〇九日 吉田茂
- 一六八二日 岸田文雄
- 一四七二日 大平正芳
- 一三三四日 安倍晋太郎
- 一一三一日 河野洋平
- 一一〇六日 藤山愛一郎
- 九七〇日 川口順子
- 九五五日 岡崎勝男
- 九四八日 愛知揆一
- 九〇九日 園田直
- 八六九日 椎名悦三郎

八三一日 小坂善太郎

八一八日 中山太郎

七九八日 高村正彦

七七七日 重光葵

七七〇日 河野太郎

六九七日 三木武夫

六六六日 麻生太郎

六四七日 宮沢喜一

この間の外国訪問回数は五九回、

外国出張日数は二九〇日になります。

訪問国数は歴代最多の七七カ国・地域（のべで一二三カ国・地域）。

国際会議出席は九七回、国連安全保障理事会では議長も務め、国連総会ではマンデラ元南アフリカ大統領に関連した演説もしました。

二国間又は三方国間の外相会談は一四二カ国の外相と三八九回、四カ国以上の会合を含めると四二一回になります。

外相間での電話会談は、四二カ国・地域との間でのべ一一七回になりました。

相手別に外相会談（二国間又は三

カ国間）の数を比較してみると

康京和韓国外相 二二回

マイク・ポンペオ米外相 一四回

セルゲイ・ラブロフ露外相 一一回

王毅中国外相 一一回

クリスティア・フリーランド加外相 九回

ファン・ビン・ミン越副首相兼外相 八回

アイマン・サファディヨルダン外相 八回

モハンマド・ザリーフイラン外相 七回

ジャンイブ・ルドリアン仏外相 七回

ジュリー・ビショップ豪外相 六回

ハイコ・マース独外相 六回

相手別の外相電話会談の数は

マイク・ポンペオ米外相 一六回

康京和韓国外相 一二回

ジャンイブ・ルドリアン仏外相 七回

レックス・テイラソン米外相 五回

フエデリカ・モゲリーニEU外相 五回

ボリス・ジョンソン英外相 五回

河野太郎外相の訪問が日本の外務大臣として初の訪問となった国がいくつもあります。

東チモール（独立後初）、ブータン、モルディブ、パラオ、マーシャル、ミクロネシア、エクアドル、アイスランド、アルメニア、ジョージア、スロベニア、バーレーン、南ス

ダン、モザンビーク。

東チモールは独立する直前に、当時の河野洋平外務大臣が訪れています。また、アルゼンチン、クロアチア、スウェーデンは、私が訪問するまで、最後にその国を訪れた日本の外務大臣は河野洋平外務大臣でした。

*外務大臣の数え方は、戦前、戦後で変わります。戦前は、天皇に対して輔弼の任を負っていたので、外務大臣自身の交代によってのみ数える「人物主義」、戦後は、外務大臣としての辞令が発令されるたびに数える「辞令主義」です。

辞令主義の場合、新たな首班指名の下、外務大臣が「再任」される場合は外務大臣としての辞令が交付されるので一代と数え、内閣改造で「留任」する場合は辞令交付がないので一代と数えません。

河野太郎 公式 twitter アカウント

@konotarogomame

タイムリーな情報を配信しています。是非、フォローしてみてください。